

<第12分科会> 自立と共生

研究課題 自立と共生を図り実践的態度を育む教育の推進

分科会の趣旨

現在、障害の有無にかかわらず、人々が互いに人格と個性を尊重しあう社会の実現が求められている。

学校教育においては、すべての子どもたちが、各自の能力を生かし、共に生活する中で、互いに認め合い尊重しあう心を育むことが重要である。とりわけ特別な配慮を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、適切な指導と支援を行うことは不可欠である。そのためにも、校長は、自ら特別支援教育に対する理解を深めるとともに、教職員の共通理解や関係機関との連携に基づく支援体制を充実させなければならない。

一方、近年における地球規模での自然環境の悪化に伴い、環境破壊の抑止、生物多様性の保全等の考えに立った循環型社会の早期実現が、強く求められている。また、少子高齢社会の到来は、様々な面で現在の社会の持続に警鐘を鳴らし、人間関係の希薄化を一層深刻な状況へと進行させている。今、互いの基本的人権を尊重し、共に豊かに生きていこうとする考えに立った共生社会の実現が求められているのである。

学校教育においては、次代を担う子どもたちに、自立した個人として積極的に社会参加しようとする態度を育むとともに、将来にわたり社会や自然環境などの様々な課題に対して主体的に関わり、実践的に解決しようとする力を育むことが大切である。本分科会では、児童の自立を図るための特別支援教育、心結ぶ未来社会の実現を可能にする実践的な態度を育む環境教育等を推進するための具体的方策を明らかにする。

研究の視点

(1) 子どもの自立を図る特別支援教育の推進

人々が互いに人格と個性を尊重しあう社会の実現にとって、特別支援教育の推進・充実は不可欠である。そして、特別な配慮を要する子どもの自立と社会参加を進めるためには、保護者との信頼関係に基づく早期からの教育相談や就学相談の充実とともに、的確な実態把握をもとにした個別の指導計画の作成や医療機関・関係機関との緊密な連携が重要となる。また、教員の専門性の向上、全教職員の共通理解や協働体制もきわめて重要である。

このような視点に立ち、子どもの自立を図る特別支援教育を推進する上での、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 心結ぶ未来社会の実現に向けた実践的態度を育む環境教育等の推進

科学技術の進歩や経済の発展は、人々の暮らしを便利にした一方で、環境破壊や人間関係の希薄化など多くのひずみを生じさせた。この状況から脱却し、将来にわたり持続可能な社会をつくることのできる人材の育成が、今、学校教育に強く求められている。

学校は地域の特色を生かし、子どもたちに、環境問題に対して主体的に気づき、考え、行動する実践力を育てていく必要がある。身近な自然とのふれあいや社会への働きかけにより、感性を磨き、人類全体に関わる問題として、その解決を図ろうとする心情を育むことも重要である。

また、環境教育同様、福祉教育においても、共に助け合い共に生きる心結ぶ未来社会の構築の実現に向けた取組が望まれる。

このような視点に立ち、環境や福祉に対する豊かな感性と主体的な実践力を育む学校づくりを主軸とし、家庭や地域、関係機関と連携した教育活動を推進する上での、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。